保育奉公

大東亞戰爭必勝完遂

明治天皇御製

學校

まなびやに入りにし日よりうなゐ子がものいひさへもかはりぬるかな

四月いま、この御製を謹誦して、あまりの有り難さに胸の充ち張る思ひがする。學校といふものを、その教育の效果を、斯くも御心にとめ認めさせ給ふてゐるのである。更にこまかくは、初めて學校に入つた幼き兒童の心を、こゝまでも的確に御理解あそばされてゐるのである。更に々々繰りかへし謹誦し奉れば、新入學兒童等の上に、如何に御いつくしみ深く、喜びの御こゝろを寄せさせ給ふてゐるかゞ御歌の餘韻の響きに傳はり來る。尙ほまたその響きのうちには幼き兒童のあらたまつた言葉づかひに、御ほゝえみをさへ給ふてゐるやうななごやかな音色をも、恐懼のうちに感じ奉るのである。

この貴き御製こそ、全日本の、年々の、新就學兒童の上に下し給ふたものであると共に、國民學校教育者の上に下し給ふたものでもある。新入學兒童等の、この可憐なる緊張を決して見すごしてならないと共に、御心深く御認めさせ給ふた低學年尋一の教育を、おろそかにしては、教育者として、この御製に對し奉りて相濟まない。言葉のしつけだけのことでないのは素よりである。

それにしても、子どもに關する御製の多くあらせ給ふだけでさへ有り難い極みなのに、特に所謂尋一の生活を御題あそばされてゐるのである。たゞに教育に御心を注がせ給ふに止まらず、特に新入學兒童のありさまにまで、周到の御關心を垂れさせ給ふてゐるのである。感激その限りを知らぬ。（倉橋惣三謹誦）